



耳鳴りにお困りの方

難聴にお困りの方

デジタル補聴器

音が聞こえる仕組み

アレルギーの仕組み

リンク集

いつ頃から増えて、現在は  
どうなっているか

[TOP\(耳鼻科\)](#) > [アレルギーの仕組み](#) > いつ頃から増えて、現在はどうか  
なっているか

印刷して読まれる方は[こちら](#)

### いつ頃から増えて、現在はどうか

- アレルギー性鼻炎は、1960年の前半から始まった慢性副鼻腔炎の減少、軽症化と逆比例して1965年後半から増加し始め、1970年に入り数倍に急増し、なお増加している。最近の増加はスギ花粉症で著明である。ハウスダストアレルギーは都市部ではややプラトーになり、町村部ではなお増加の傾向にある。
- 有病率はばらつきが大きいですが、通年性アレルギー性鼻炎が10-20%、花粉症が10-15%。
- 全国患者総数は1,800-2,300万人。
- 診療費は1,200-1,500億円（1994）と推定。

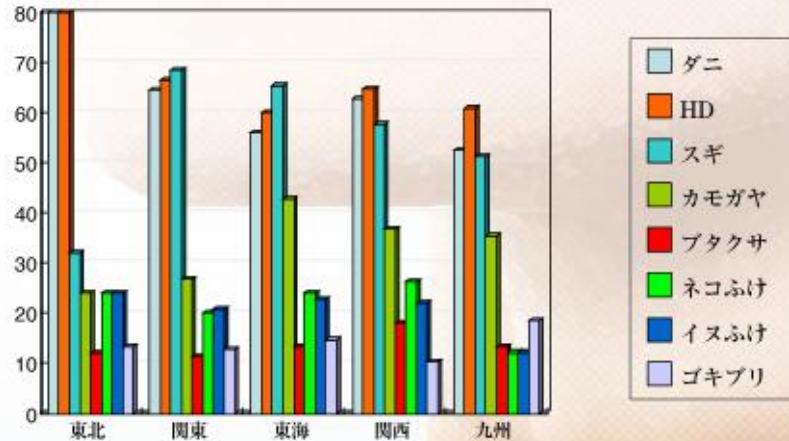
1) アレルギー性鼻炎の有病率

都道府県別有病率 (%) (解析対象者数 17,253人)

	スギ花粉症	花粉症	アレルギー性鼻炎
北海道	2.9	13.1	22.4
宮城	21.3	24.3	17.2
京都	16.7	20.5	15.4
全国平均	16.2 (0.6 - 26.9)	19.6 (0.6 - 30.0)	18.7 (7.5 - 30.8)

(中村ら、日耳鼻 105, 2002)

2) アレルゲンの種類と地域別陽性率



1) アレルギー性鼻炎の有病率には地域差があることが報告されています。例えば、スギ花粉症は北海道で少なく、本州の太平洋沿岸地域に多いようです。全国平均では、花粉症全般の有病率が16.2%、アレルギー性鼻炎全般では18.7%となっております。

2) アレルゲンの陽性率も地域差があります。ダニ抗原やハウスダスト抗原は東北地方に多く、カモガヤなどのイネ科の花粉抗原陽性率は東海、関西、九州で多いようです。イヌ、ネコなどペット由来の抗原陽性率は全国ほぼ同率のようです。



前のページ



次のページ

- [アレルギー反応とは](#)
- [鼻炎の病名とその定義](#)
- [アレルギー性鼻炎発症のなりたち](#)
- [いつ頃から増えて、現在はどうなっているか](#)
- [アレルギー性鼻炎の治療法](#)
- [各治療法の特徴](#)
- [まとめ](#)

